

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ベーテルの夢	公表日 R7 年 6月 16日
------	--------	-----------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・児童を分けて支援している。（個室や戸外・公園など）密にならないように	・利用児が多い時、狭く感じる ・利用者が多いとき狭く感じる為、活動目的に応じ1・2階各支援室を区別し使用する ・戸外活動を積極的に取り入れる
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			・基準配置を守り適切に配置している。送迎に関しては専属ドライバーや特別支援専門学科の大学生アルバイトを配置するなど手厚くマンパワーを置くことで安全をより強化している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	・完全なバリアフリーではないものの手すり設置などあり	・バリアフリー無し（玄関、階段） ・排泄介助の時等スペースが狭い ・階段・玄関・トイレ等段差有りバリアフリー化対応外であるが手摺り設置は有
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			・こまめな換気、清掃、クッション等の洗濯を行うことで快適に過ごせるように配慮し、スペースにおいては活動に合わせ事業所外施設も適度に利用することで安全を確保できている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8			・個別の活動内容や情緒の安定の為、静かな環境を提供、クールダウンで個室を利用するなど適切に個別の部屋の利用を行っている。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・毎朝のミーティングで前日の振り返り等から派生させ時間を取って会議をしている。	毎日のミーティングにて子供達の前日・近況等の情報共有し記録している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				保護者からの意見など随時閲覧し職員で共有し、都度ミーティングで改善点等を検討している。ホームページ等で前年度の自己評価を公開している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			職員のヒヤリングを行い、必要に応じて適切に個人面談している。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1		監査や法人本部、外部アドバイザー（小児精神科医等）からの助言を適宜、受けている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8			必要に応じ法定研修に参加し関係機関の（放課後連等）研修に参加している。 事業所内研修等で勉強会を設け、必要な知識や経験の習得に励み自己研鑽している。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			支援プログラム公表済み。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			個別支援計画の中間評価に基づき支援計画の見直しや確認を都度行っている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			日々の支援者会議で個々の課題を出し合い、強みを確認しあうことで効果的な支援や手立てを考えている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・共有（パソコン内で）のできるような工夫がされている（常に確認可能）	振り返り記録の入力の際には個別支援計画書に照らし合わせて確認しながら入力できるようにした。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			支援者会議や定期的なアセスメントを取ることで中間評価や個別指導の評価の手立てにしている。今後、インフォーマルなより具体的なアセスメント表を作成していく予定。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			児童発達支援ガイドラインに基づき、個別支援計画を作成、個々の困り感や課題に関して丁寧に関われるようにしている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			週間案に基づきプログラムを構成している子ども達の特性や情緒の波など細かな変化に応じて行っている。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			領域に合わせた活動を個別支援計画に基づき行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			・不登校児の午前利用等で通所及び活動に参加し、学校との連携により課題に取り組むなど個々の必要に応じた個別対応、畑や運動等のレクリエーション等の集団活動にも取り組んでいる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			朝のミーティング実施し始業前の申し送りに、法人理念の確認、当日の役割、利用児童の確認と支援内容の確認を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			終了後ミーティング実施し、帰宅送迎後のミーティングを持ち引継ぎ改善点など話す。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			支援記録ソフトにて記録。個別支援計画書、保護者への連絡事項などに連動した記録内容になるように留意している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			スタッフミーティングにおいて共有された情報を加味しながら、児童発達管理責任者によって計画の見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		参加者に各指導員の気付きを共有してから、会議に参加するようにしている。	児童発達支援管理責任者や児童指導員、他、教員、各事業所の担当が参画できている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			必要に応じて、保護者や相談員と一緒に情報を共有できるように連携している。 要保護児童に関して、医療機関との連携を図っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			就学前の移行支援として幼稚園や保育園、こども園との支援者会議に参加している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			就学前の移行支援として幼稚園や保育園、こども園とから得た情報を基に小学部への支援者会議に参加している。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	6	2	・すなばの会等で（アドバイザー）医師センターや基幹事務所と連絡して情報支援している	浦添市児童発達支援センターや基幹相談等に相談したり、研修を受けられる体制を整え参加している。（すなばの会、放課後連スーパーバイザーからの助言等）
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	・地域の公園などであった子とたまに遊んだりする。	地域の児童館やスポーツセンターなど適宜で利用し、環境や施設慣れる工夫をしている。畑や近隣公園に関しては日々利用し地域の方への理解も深めているが保育園やこども園、保育園との関わりは少ない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			送迎時には学校からの引き継ぎ、気になること等がある際は様子を伝えることで保護者様と共通理解を図っている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		相談支援員などを通してペアレントトレーニングの受講などを勧めてもらっている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			契約時や毎月発行のペーテル通信等において、当事業所の基本的方針や支援内容、利用に係る費用について改定等がある場合は都度、ご連絡している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			現在の様子シートやアセスメントとすることで、より本児に合った声かけや手立て、こうしてほしいと望むことを共通理解している。

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			個別支援計画の中間評価に基づき支援計画の見直しや確認を都度行い、個別支援計画への同意署名を頂いている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・送迎時なども友好的に活用	家庭と連携して情報共有し帰りの送迎時、引継ぎ、モニタリング、個別面談などを通して行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	・ベーテルcafé（保護者交流の場）の実施	・現在延期されている。コロナ後、父母の会の実施ができていない。 ・保護者の集まり（ベーテルcafé）を定期で行っていたが6年度は開催が不定期になった為、次年度は開催していく予定。 ・新しいイベント等の開催も企画していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			情報伝達の方法や配慮すべき点について情報の収集に努め、必要な対応を迅速に取れるようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			毎月のベーテル通信や行事前のお手紙配布、ＳＮＳで活動の様子の発信をしている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			すべてのスタッフが個人情報保護に関する学び、この点について十分な理解をし、利用児童とご家庭の安全安心に努め、法人の規約に基づき職員一人ひとり同意書をとっている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			情報伝達の方法や配慮すべき点について情報の収集に努め、電話や共通、個別でのメールでの迅速な対応にて情報提供している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		・畑などの活動 ・地域の畑で、地域の方との交流を図っている。	自治会の活動や地域の行事に出来るだけ参加し、ベーテルファームで収穫した野菜をバザーや自治会へ提供し還元できるようにした。ベーテル主催のイベントを企画し積極的に開催できるよう取り組んでいく。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			各種マニュアルについても策定し、スタッフと確認しながら保護者へも周知している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			ＢＣＰ策定済み。年２回（災害・火災）、その他（不審者訓練・地震・津波）実施。そのほか災害時引き渡し訓練も取り入れていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			契約の際、重要事項説明書にて対象児に関して詳細や現状を確認し、必要に応じて医師の指示書を確認している。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			ご家庭より提出される情報に合わせ、必要に応じて医師の指示書を提出してもらうようにしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			安全管理マニュアルを策定済み。危険個所に関しては都度、修繕等にて対応している。看護師による定期的な事業所内研修を開催し、具体的な避難、救出訓練を行っている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			各種マニュアルについても策定し、スタッフと確認しながら保護者へも周知している。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			・事例発生時に直ぐに記入出来る様ヒヤリハット記録票を準備設置 ・ミーティング等で共有
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・年に一度の虐待研修を実施	虐待防止に関する研修について、特に意識しながら研修に参加し、知り得た情報や伝達研修・所内の研修を通してスタッフ内で共有している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・運営規定に記載している。	身体拘束0を基本とし、拘束しないケアの在り方についてスタッフ全員で取り組み、法人の他サービスから得た考え方やノウハウを現場に活かし、保護者との十分なコミュニケーションを通して計画していく。強度行動障害支援者を配置している。